

35分間 非核への願い

米国が1954年に太平洋・ビキニ環礁で行った水爆実験について学ぶDVD「核被災と核兵器禁止条約」が1日、リリースされた。県内の元船員らの聞き取り調査をしてきた「幡多高校生ゼミナール(幡多ゼミ)」の活動を中心に、元船員や遺族へのインタビューなどを盛り込んだ。元教員や幡多ゼミ生らでつくる製作委員会は「教育現場の教材として使ってもらいたい」と期待する。【松原由佳】

ビキニ水爆実験65年

ビキニ水爆実験から1日で65年を迎えた。製作委員会は被害の実態を次世代に伝えたいと、昨年からの準備を進めてきた。

DVDは、これまでに発表されたさまざまなドキュメンタリー映像に新たな撮影を加えた35分間。太平洋での核実験記録などを文章と図で説明した資料もCDデータで添付されている。

DVDは2部構成。第一部「ビキニ事件の真実」では、県内の高校生が被災者の調査を

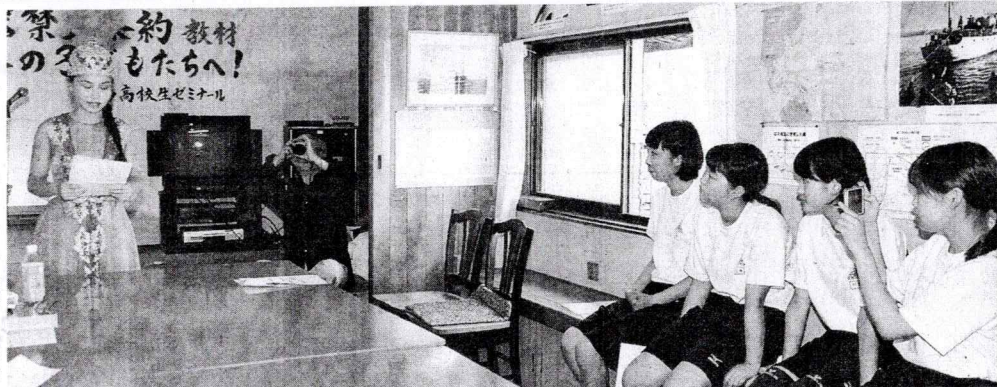
85年から始めた様子や高知地裁で争った国家賠償請求訴訟の映像を紹介。歴史の闇に埋もれていた県内の被災者に光を当てた功績をまとめた。

第二部は「核なき世界に向けて」。昨年8月に広島で開かれた全



せるか、考えを深めてもらいたい」と映像で呼びかけている。幡多ゼミ生は昨年9月、カザフスタン・セミパラチンスク(現セメイ)出身の留学生、アイダ・マクハノワさんと宿毛市内で交流した。セミパラチンスクは旧ソ連が核実験を繰り返した地域で、両者が核被害について意見交換した様子も映像に取り入れた。

DVDは一般書店に置かず、問い合わせに応じて有料で配布。DVDを編集した製作委員の今城隆さん(58)は「保障の対象になっていない(元船員たちの)理不尽な現状を知ってほしい」と話している。問い合わせは太平洋核被災支援センターにファクス(088-066-1763)で。



アイダ・マクハノワさん(左)の発表に耳を傾ける幡多ゼミ生
|| 宿毛市で2018年9月

元船員ら調査 高校生らDVD製作

「教育現場の教材にも」



DVDを手にする今城隆さん
—高知市で